

歴史文化資源

- 明日香村全体のストーリー性のある説明の作成及び語り手の育成が重要
- 遺跡そのものについても引き続き整備を行い、良い状態で維持していくことが必要
- 平地の田んぼで9割近くが60年前から変わっていない地域は、日本全国を見ても明日香村以外になく、今の営みも、明日香だからこそ残されているということを評価していったほうが良い

交通

- 周遊交通と地元住民向けの交通は、完全にすみ分けるのではなくて、うまく組み合わせるという発想のほうが大事
- QRコードを用いた事前の混雑度の把握や、自家用車での来訪については、駐車場料金を多く取るなど、オーバーツーリズムにも配慮した交通コントロールを検討していくことが必要

景観

- 図と地の関係で明日香村の景観づくりを考えていく際に、現状「図の部分」となる見せ場となるような史跡整備等のハード事業に力を入れているが、今後は明日香村の有する田園景観の「地の部分」のコントロールについても検討していく必要
- 眺望ポイントは非常に重要であり、「ここで見てください」というポイントを明確にして整備していくことが必要

観光

- 超高付加価値化観光を目指したい（村）
- 観光需要の高まりによる開発圧等に対する土地利用マネジメントが、どれくらい目配せが利くかということが重要
- 地域にずっと住んでいる人々だけでなく、移住者や新規営農者、二拠点居住などの多様な人々にも、地域の生活も含めて案内するチャンスをつくっていくことが必要
- 村外から来た人も含め、地域の生活全体を説明する多様な人材を育てることが大切

生業とくらし

- 飛鳥の価値がどんどこにあるかというストーリーを説明する際に、伎楽の再現が必要（村）
- 民俗行事のようなところについても調査を進めていくことが必要では
- オーナー制度などについて、担い手の不足等の課題にしっかり向き合うことは極めて重要
- アートや音楽など、多様な面で将来もっと何かが起こるということは、新たな結束、みんなのつながるのに大切
- 若い人たちなど、新規移住者に対して、そこで暮らしていく理由、暮らしていきたい理由を作っていく必要

農業

- スマート農業やドローンなど、色々な技術も発展しているため、省力化を踏まえ、最新に切り替えても良いと考える。農業のやり方というのを、現状から切り替えても良いのでは
- 一方で古い農法、農業でやっていくということに、魅力を感じる人々も存在
- 作業機械について、それぞれの家に田植え機とトラクターとコンバインがあるが、年の稼働日数にしたら数日であり、それを共有化することで、負担を軽減化するといった部分も誘導しながらやっていけば良いのではないか
- 明日香村も地域計画を進めているので、地元の方々からの声が出るきっかけになって、持続的な農業経営に向けたヒントが出てくるのではない

買い入れ地

- 買い上げされた土地の利用の仕方として周辺の農地と同じように使いたいという人が出てきたら、その農地をもう少し自由に使えるようにする手法は、（国と県と）一緒になって考えていただけないかなと思う（村）

広域連携

- 縦割りの打破みたいなもの（文化庁と国交省等）が、日本の中全体で、どこの自治体でも非常に難しくなっているところを、明日香村では、先陣を切って縦割りの打破をやったださっているようなところがあると思う。